

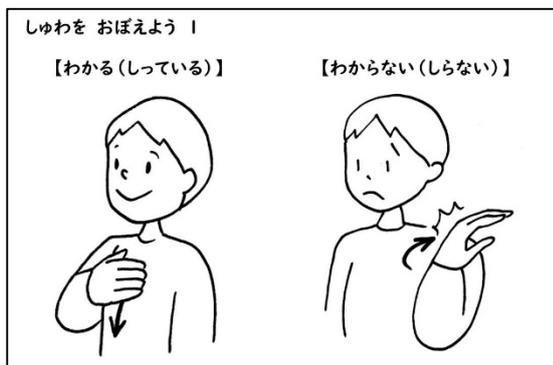
取り組み紹介

【通常の学級での手話表現の練習】

- きこえる子どもたちが、手話表現を覚え、きこえにくい子どもたちとの会話で使用できるようになることを目指し、きこえにくい子が在籍するクラスで取り組む。
- 朝の会の5～10分程度を活用し、朝礼や集会を実施しない時に行う。
- きこえにくい子が、手話表現のモデルを示し、きこえる子どもたちが、その表現を見て覚えるようにする。
- きこえにくい子どもたちが、手話表現を説明しやすいように、手話表現を練習するための資料を作成し子どもたちが、その日に練習するものを1枚ずつ、難聴学級から通常の学級へ持って行く。
- 手話表現練習後は、通常の学級の教室に掲示しておく。

①低学年向き資料の例

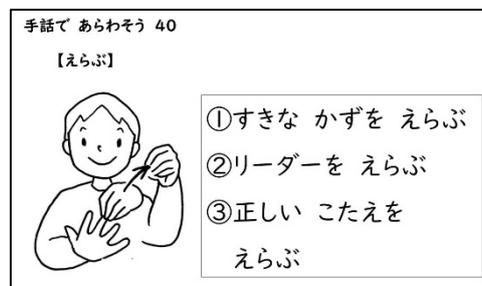
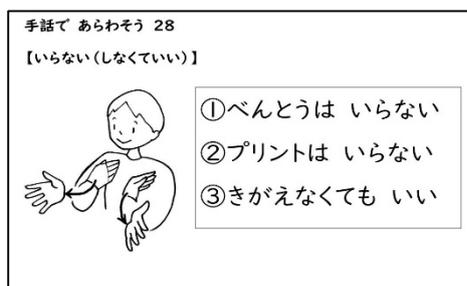
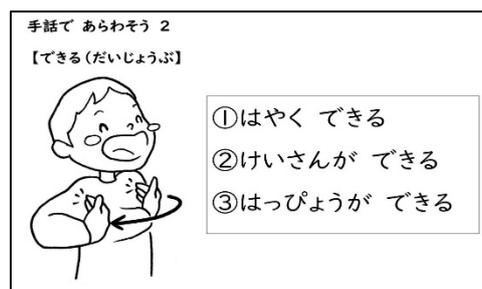
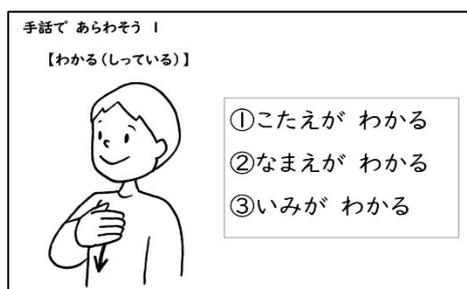
- 1枚のプリントで、単語の意味を対比して覚えられるようにする。



②中学年向き資料の例

- 低学年で学習した単語を元に文で表す練習をする。
- 手話表現の提示の仕方を工夫する。:説明の例

・「今日は、わかるという手話の練習をします。1番こたえがわかる。」と口頭で言った後、手話で「こたえがわかる」と表し、「どうぞ。」と他の子が表現するように言う。他の子が表現できていれば「OKです。」と言い、次に進めるなど、手順を決めている。



*手話表現のイラストは、全国早期支援研究協議会が編集する『おやこ手話辞典イラスト集』(CD)に掲載されているものを使用している。